

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104907		
法人名	有限会社 サン企画		
事業所名	グループホームグリーンハウス		
所在地	岡山市中区祇園41-1		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム＝家庭の延長として過ごして頂ける生活環境づくりを念頭に、入居者の皆様が笑顔で日々生活して頂ける施設を目指し、施設理念を「明るく・楽しく・あたたかく」を目標に取り組んでおります。入居者皆様、当然ながら年齢・これまでの生活環境・性格・体力等々様々な方が集い共同生活をされています。けっして強要することなく個性を重視し、日々の日常生活における支援・介助も時間にとらわれることなく相手目線を重視しケアに努めております。また、四季折々の季節を感じて頂くイベントもスタッフ手作り感のある心をこめた行事、外出(ドライブ)。地域交流を企画し単調となりがちな日々思い出を残すよう努め活動しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者様の機能低下に伴い生活リハビリを取り入れ、寄り添う介護を念頭に置き「明るく、楽しく暖かく」、共に支え成長する場作りに努力されている事業所です。職員一人ひとりが支援の目標シートを作成し、サービスの質の向上に努めておられました。「AED」設備があることを外部に向け掲示されるなど地域連携にも努力をされています。感染症、ノロウイルス等の対策として空気清浄機に頼るだけではなく、窓を開けることなど気配りが出来ています。入居者の方が詠んだ短歌、「心地よきホームに過ごせる幸せを心に謝して日々を送らん」が掲示され、この歌にふさわしい事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領を各ユニットに掲示、共有事項として推進する。またミーティング時唱和する。	個人の尊厳、個人の尊重、倫理綱領を掲げミーティング時唱和、機会ある毎に、振り返り健全なホーム作りを目差されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会行事に参加、見学場所の確保等協力頂く。日常的交流に付いては希薄であり今後の課題。	地域の行事には、積極的に参加され初詣(地域の皆さんとのふれあい)餅つき(嚙下困難な人のためには白玉だんご)花火大会、敬老会、とんど焼、お飾り作り等。地域との日常交流が出来ていました。	事業所外への参加は出来ていますが、小さいイベント、AEDの講習会、小物作りの会など地域の方が事業所へ足を運んでくださる機会を設けられる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議メンバー等の協力の下、地域行事に参加し理解を深めて頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元有識者に参加頂き状況報告、現状確認としてイベントに参加いただき生の姿を見て頂く等により提案・助言を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回地元の方、地域包括の職員に参加していただき開催されています。運営推進会議で頂いた情報、提案をサービス向上に努めておられました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに地域包括センターに入って頂き交流を深めて取り組んでいます。	解決出来ないことがあれば市の介護保健課に聞き指導を受けておられます。感染症、ノロウイルス等情報発信を受け対策をされるなど市との連携に努力をされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除指針を作成、これに則し進めている。	身体拘束排除指針を作成、勉強会を開催し、身体拘束のない取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あつてはならないことであり言葉の暴力も含め各自、自覚し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習に参加し知識を広める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけ説明し理解頂く、また疑問・不明点発生すればいつでも質問頂く様に伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名を含め随時受け付けている。職員間には申し送り、ノート記載の徹底を図りまた個別フィードバック、季節ごとのホーム便りに掲載し家族会にて報告して反映させている。	利用者は日常生活の中で、ご家族は来所時に聞き取りをされていました。出来ることは迅速にケアに取り入れ、職員に徹底を図り、反映されています。家族の要望でユニット車を貸し出し墓参りし、喜ばれた話を伺いました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月例ミーティングで討議する ・代表者と気軽に話ができる組織を目指しています。	代表者が気軽に話しやすい雰囲気を作っておられ、職員の要望、意見等を取り入れ運営に反映されています。若い職員の趣向を凝らしたクリスマス会の花火など意見を取り入れられていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・報・連・相の基各自の自主性を尊重し向上心を持って就業してもらう。 ・残業ゼロを目指した適正人員配置。 ・個人希望を取り入れた勤務シフト。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、研修内容をミーティング時を活用し内部研修にて横展開を進める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアマネ研修会への参加、また推進会議メンバーに近隣施設代表者も加え情報交換を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人不安な中での生活がスタート、きめ細かい対応にて安心を確保すべく細心の注意を払う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報含め十分なる意見交換を図る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	真の思いを見極め最善策を見い出す。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手目線に立った会話等により信頼関係を構築し仲間感(家族感)を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力体制の必要性を訴え共同体とした関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆・正月の一時帰省の呼びかけ、手紙のやり取り支援、面会受付等支援に努める。	我が家を忘れないために、ほぼ毎週帰省されたり、食事に連れていかれる家族もおられます。又別の家族も通院介護時、帰りに昼食を楽しまれ、時に散髪、美容院・入浴に行かれる、又手紙のやり取り等色々関係継続の支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に目を配り声かけ等により穏やかに過ごせるように支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先、転居先に訪問、またご家族に連絡して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを尊重する、意思疎通困難者に対しては本人本位に検討・対処する。	発語の出来ない人、意思疎通困難者に対しては、日々の関わりの中で利用者の思いや、意向の把握に努められ、支援されています。	これからもその人らしい暮らしを続ける為に家族や関係者から情報をいただき、把握に努められる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族との面談を参考に掌握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自それぞれの生活リズムに配慮し観察、掌握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフの皆の意見を出し合い現状に即した介護計画を作成する。	3ヶ月に1度利用者、家族、ケアマネジャー、担当医、リーダー達が意見交換し、モニタリングやカンファレンスを実施し一人ひとりの現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、発言(発信)を記録しスタッフ間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに生かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じたタイムリーに対応していく(医療受診支援・治療食等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内イベント、公民館イベント等活用させて頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛り付け医への受診・往診、提携医への受診・往診と、本人・家族の希望にて選択頂き医療を受けて頂く。	家族と一緒に受診されている人、往診に来ていただいている人、かかりつけ医の受診には職員が代行しています。医療機関との関係も大切にされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師スタッフ1名、契約訪問看護師が定期訪問、協働にて体調管理に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時お互い情報交換を密に行い対応する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成、ご家族に説明し同意書を頂いております。	看取り指針を作成し、本人と家族の意向をよく聞き、話し合、医師、訪問看護、職員と連携を取り安心して納得した最期を迎えられるよう、取り組みに心がけておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えての救命・救急講習順次受講中 尚、AED設置済。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年防災・避難訓練を実施、近辺に消防署ができ運営推進会議にて講習して頂く等関係を深めている。	年2回避難訓練を実施火災通報装置の設置あり、ボタン1つ押すことで消防署、施設内全てに通報出来るようになっていきます。防災カーテンも付け、又コンセントに溜まった埃の掃除、電気系統の点検もされています。	今後とも火災対策を含め地震、台風、水害等を想定され整備に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり常に念頭に置き対応している。	指示命令することがないよう、誠意をもって一人ひとりを尊重した丁寧なやさしい言葉かけがなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望・決定権を尊重すると共に相手から聞き出す会話で自己決定力を養うように働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制することなく相手ペースを尊重、見守りにて安全確保し希望に沿った支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ブラッシング、衣類の選択等自主性を尊重し側面支援を行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ時のお茶・お菓子の選択を可能時はして頂く、また人は限定されるが準備・かたづけを声かけしてお手伝い頂くこともある。	食後の片付け洗い物、おやつ時のお手伝いを自発的にされ出来た喜びを分かち合い笑顔でなごやかな雰囲気でした。食事のメニューがテーブルの上や壁にかかかってあり、食べたい物の希望も叶えられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた量、キザミ食を提供、必要な方は水分量を記録し管理し確保すべく支援を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ブラッシング、口腔ケアティッシュ実施、夜間に入れ歯洗浄剤にて洗浄を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自のパターンに応じ時間管理での誘導、様子を見ての声かけ誘導を記録し管理し支援する。	日中は、ほとんどの人が布パンツ使用、一人ひとりの把握が出来ており、さりげない誘導で自立にむけ取り組んでおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて管理、状況により豆乳・冷牛乳・飲料等の提供にて個々に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後からの基本ローテーションではあるが希望・拒否確認の上入浴して頂く。	風呂が大好きで湯船から出たがらない人、入浴を拒む人にも、言葉掛けの工夫され、一人ひとりに合わせ柔軟な対応をし、入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望、体調を観察し臥床して頂く、またパジャマの洗濯・シーツ交換等定期的実施する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr・薬剤師から説明を受け用法や用量を理解し内服確認を含めた支援を実施、症状の変化の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、気力に応じ玄関掃除・洗濯物のかたづけ・食器洗い・また目覚めのコーヒー・時にカラオケ等実施し気分転換して頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	畑・花壇・ガーデンチェア等敷地内の散歩は可能、敷地外への外出は計画をしての実施となる、不定期であるが周辺ドライブも実施。	季節行事の花にも出かけておられ、旭川土手沿いのドライブは、「桜が満開じゃー」の声も出るくらい楽しみにされているようです。近所のスーパーに職員と共に豆乳を買いに行ったり、暖かくなると戸外又は、敷地内の散歩もされます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	極一部の方が管理されており買い物支援を実施。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えにより実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、空調に配慮すると共に季節の花も飾り季節感を感じて頂く。	窓ぎわからは春の光がそそぎ込み開放的で明るく、炬燵を設け、ソファでくつろいでいる方、テレビを見ながら居眠りをされ、家庭で過ごしている雰囲気そのもののフロアです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブル席、ソファ、畳コーナーにてその時の気分・馴染みの指定席にて過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部であるが馴染みの家具・布団、また写真・飾り物を置かれ「自分の部屋」を作られている。また居室入口に名前・顔写真の門札を掲示することで「我が家」を感じて頂く。	自分が住んでいた部屋同様に、家族の方がセットされ、お雛様、ぬいぐるみ、写真が飾られていました、馴染みの家具、布団等を持ち込み、入居者の思い思いに暮らせる様に支援がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当然ながら全フロアバリアフリー、周囲に手すりを設け、家具等は一定の場所に置き行動導線を常に一定に保つ様工夫している。		